特定非営利活動法人場とつながりの研究センター

2021 年度事業報告書

2021 年 8 月 1 日から 2022 年 7 月 31 日まで

■ 第 16 期(2021 年度)のポイント

公益財団法人信頼資本財団「休眠預金を活用した新型コロナウイルス対応緊急支援助成事業」を2021年5月に採択されたことを契機に、これまでの事務局長 1 人とボランティアによる運営体制から、職員を雇用してボランティアの参画を促しながらプロジェクトに取り組む組織体制に変わった。大きな資金提供を受けることで、これまでやりたいと考えていたがやれなかったことが一気に進展し、新たな出会い・つながりを通して新たなプロジェクトが生まれる好循環の1年となったように感じている。

緊急支援助成事業では、「子ども・若者の居場所づくり支援者」という軸で、三田市・神戸市北区北神地域・西宮市北部の「裏六甲エリア」における「意欲する市民」の活動立ち上げ・運営継続支援や、行政区域を超えた活動者同士のつながりづくりに取り組んだ。子どもの居場所は、声を出せずに苦しんでいる子ども・若者や家庭が安心して参加できる「まちのセーフティーネット」機能を有していると考えている。そのため、数を増やす(立ち上げ支援)と同時に、継続運営を目指した相談支援・研修を行うことで、一人でも多くの子どもが安心して参加できる環境を整え、受援力の高い地域づくりに取り組みたい。

また、外国人支援チーム(国際事業部)も活動の幅が広がった1年であった。同緊急支援助成事業で「裏六甲エリアにおける外国人の生活実態調査」を行い、現場のニーズを拾い上げることで、助成財団をはじめとした新たな当事者・支援者と出会うことができた。外国人も学生も(もちろん市民も)、縁あってこの地にたどりついた人たちが、助けてコミュニケーション力を高め、資源を分かち合って相互に助け合える関係をつくることで、「困った時に、誰かに安心して助けを求めることができる支え合いの社会」を目指して取り組みを進めていきたいと考えている。

私たちの取り組みに共感してくださる方や、各種プロジェクトに関わってくださるボランティアさん、ご寄付いただく方々も増えている。「NPO は社会参加の器である」という視点のもと、参加者一人ひとりを大切にした、多様な参加と役割のある出会いの場づくりを通して、「小さな事起こし」がまちの中にたくさん生まれるよう、これからも取り組んでいきたい。

■ 特定非営利活動に係る事業の実施について

1. 市民活動や運営に関する相談事業　（収益　’21：2,288 千円、’20：1,598 千円）

市民活動に関する幅広い相談支援を実施。相談料は 1 回 1,000 円（初回無料）としている。

【ひょうごボランタリー基金中間支援助成事業】

1.1. 市民活動団体・法人設立支援

市民活動団体や NPO 法人設立を希望する団体を支援。主に、申請書類作成や運営組織体制づくり、事業報告書作成支援、労務・登記に関するアドバイスをした。

（主な実績）

- 美 rais（三田）：　若手エステティシャンのネットワークづくり、社会貢献の促進を図る NPO

1.2. 団体運営・マネジメント支援・組織基盤整備・認定 NPO 取得支援

事業企画の立案や継続、運営体制のあり方についてのアドバイス、NPO 関連の制度や事例、助成金等の情報提供、広報の相談支援、人材のコーディネートを実施した。また、解散相談への対応も行った。

（主な実績）

- NPO 法人さわやか北摂・さわやか千の里（川西市）：認定 NPO 取得支援・会議支援
- 認定 NPO 法人まなびと（神戸市）：マネジメント支援、放課後児童クラブの運営支援
- 長尾児童館（神戸市社会福祉協議会運営：神戸市）　運営相談
- 神戸市認定 NPO 取得支援事業（受託・ひょうごコミュニティ財団）へのアドバイザー派遣
- NPO 法人地域社会の健康を支援する会　子ども食堂運営への支援

1.3. 団体のバックヤード（事務機能）支援

NPO の事務作業を一部または全部代行（業務受託）して実施している。

（主な実績）

- NPO 法人三田市手をつなぐ育成会：　会計事務および請求事務全般
- NPO 法人歴史文化財ネットワークさんだ：　会計および事務全般
- さんだ楽語協会：　事務全般の支援

2. 市民活動に資するネットワーク形成事業　（収益 ’21：2,022 千円、’20：100 千円）

2.1. まちなか交流企画　～まちの読書カフェ

奇数月１回、全６回開催。書籍に関連するテーマにおいて、自身の身の回りで起きていることとリンクさせながら、まちのこれからについて考えた。事務局だけでなく参加者から書籍・著者の提案をいただくことが定例化し、より多様なジャンルが実施できている。

（実施状況）

回	実施日	書籍名（出版年）	著者	参加者数
52	2021年９月25日	定年後からの孤独入門	河合　薫	５人
53	2021年11月20日	最強の食材 コオロギフードが地球を救う	野地 澄晴	６人
54	2022年１月22日	人事の日本史	遠山美都男	５人
55	2022年３月26日	それでも映画は「格差」を描く	町山　智浩	６人
56	2022年５月21日	日本語の大疑問 ～眠れなくなるほど面白い ことばの世界	長谷川和夫	６人
57	2022年７月16日	絶滅危惧種はそこにいる ～身近な生物保全の最前線	久保田潤一	６人

2.2. 子ども支援者連絡会

さまざまなテーマで子ども支援に携わる支援者同士がゆるやかにつながり、情報交換や課題解決に向けた話をするネットワーク会議を定期的に運営している。今期は、「裏六甲子ども・若者支援者ネット」としてより広域的なネットワークづくりに取り組むとともに、「一人暮らし学生食料配布企画メンバー会議」のような具体的なプロジェクトとしても活動した（詳細は P.17 参照）。

2.3. シェアオフィス

ほんまち事務所を他団体とシェアしその家賃収益を計上。NPO 法人三田市手をつなぐ育成会が 2022 年１月まで入居していたが、現在、利用団体はない。なお、土間の奥スペースには業務用冷凍冷蔵庫を設置し、フードバンクからの寄贈品を中心とした食料貯蔵拠点として活用している。

2.4. 三田 NPO 連絡協議会　／　2.5. 遺贈資源仲介

今期の実施はなかった。

2.6. 裏六甲子どもの居場所支援者ネットワークづくり 【NPO法人子ども食堂支援センターむすびえ助成事業】

裏六甲エリア（三田市、神戸市北区北神地域、西宮市北部など）の子ども・若者の居場所がつながる圏域ネットワークを立ち上げた（p.12 参照）。地域課題を共有し検討するとともに、食糧集積や広報、ボランティア人材の“発掘”や専門家資源の共通利用、研修などを相互に取り組み、助け合える仲間づくりを目的として取り組んでいる。

①研修会の実施

地域ぐるみで子ども・若者の居場所づくりに取り組んでいる佐竹台スマイルプロジェクト（大阪府吹田市）の「さたけんち」の取り組みから学ぶオンライン交流会を開催した。

日 時　2022 年 5 月 26 日(木)14:00～15:30
場 所　オンライン会議システム Zoom を活用
ゲスト　水木千代美さん（さたけんち代表）
　　http://satakenchi.com/
参加者　6 名

②ネットワーク会議の開催

（1）西宮北部ネットワーク会議

西宮市北部で活動する子ども・若者支援団体がゆるやかにつながり情報交換する場を作った。

テーマ	①2022年1月20日(木)14:00～16:30	②2022年6月16日(木)14:00～16:30
会場	上山口東自治会　自治会館	西宮市塩瀬公民館
参加数	8 団体 ＋市職員、市社協、コープ西宮北店	8 団体 ＋市職員、市社協、コープ西宮北店

③公式 LINE アカウントを活用した情報発信

子ども・若者支援に関する助成金情報や地域で活動する団体のイベント情報などを収集し、発信している。（リンクは p.7 参照）

3．市民活動に資する人材育成事業　（収益 ’21：854 千円、’20：48 千円）

3.1. 自主セミナー開催

（1）NPO スキルアップセミナー　【ひょうごボランタリー基金助成事業】

NPO 法人を対象に、組織運営に必要な情報やスキルを提供することを目的に開催した。

①NPO と個人情報保護

テーマ	①「改正個人情報保護法」を知る	②オフィスや活動現場の情報セキュリティ対策を考えよう
実施日	2021 年 10 月 4 日(月)19:00-20:30	2021 年 10 月 18 日(月)19:00-20:30
会場	オンライン(zoom を使用)	オンライン(zoom を使用)
内容	2017 年 5 月施行の「改正個人情報保護法」についての解説	個人情報漏洩対策のための、事務所機能のあり方についての解説
講師	大島一晃(理事・事務局長)	大島一晃(理事・事務局長)
参加数	7 法人・団体／9 人	6 法人・団体／7 人

②NPO で働くの支え方　vol.3「法令遵守・ハラスメント対策のコツを考える」

テーマ	2022 年の法律改正を、総ざらい!!	ハラスメント対策を通して「コンプライアンス」を今一度考えてみよう！
実施日	2022 年 7 月 7 日(木)19:00-20:30	2022 年 7 月 14 日(木)19:00-20:30
会場	三田市まちづくり協働センター　講座室 オンライン(zoom を使用)　併用	三田市まちづくり協働センター　講座室 オンライン(zoom を使用)　併用
内容	2022 年4月改正の「個人情報保護法」、「育児介護休業法」の改正を中心に解説	「『労働施策総合推進法』に基づくパワーハラスメント防止措置」をもとにハラスメントの考え方を解説
講師	三谷文夫さん(社会保険労務士、産業カウンセラー)	三谷文夫さん(社会保険労務士、産業カウンセラー)
参加数	4 法人・団体／5 人	5 法人・団体／6 人

3.2. 講師派遣

実施日	内容	主催者	派遣者
2021年11月5日(金) 18:30-20:00	国際理解を深めよう～ベトナム人のエンさんから見た日本 ＊同内容で、有馬高校定時制にて講演	三田市人権を考える会　三田小地域部会	エン
2021年10月22日(金) 13:00-14:30	「NPO・NGO 論」ゲストスピーカー 「自分らしくいられる場」を、まちの中にたくさんつくる ～サードプレイス創出支援と NPO 中間支援の実践事例	甲南大学 帯谷博明研究室	大島
2021年12月3日(金) 15:30-17:00	「NPO 法人事務体制整備ノート　～より良い法人運営のために～」 検討委員	NPO 法人 アカツキ	大島
2021年12月7日(水) 11:20-11:40	関西学院大学総合政策学部チャペル 「自分らしくいられる場」を、まちの中にたくさんつくる ～サードプレイス創出支援と NPO 中間支援の実践事例	関西学院大学 総合政策学部	大島
2022年3月3日(木) 13:30-16:30	ひょうごボランタリープラザ助成金取得団体交流会　ファシリテーター	(社福)兵庫県 社会福祉協議会	大島
2022年3月19日(土) 16:00-17:30	コミュニティポッドキャスト 「SBCast.」への出演	NPO 法人まちづくりエージェント SIDE BEACH CITY	大島
2022年6月5日(日) 10:00-11:30	神戸市北区有野台民生・児童委員を対象とした多文化共生勉強会　ファシリテーター	(公財)神戸国際コミュニティセンター	本田

3.3. 委託セミナー開催

今期の実施はなし。

3.4. 市民の「やりたい！」を支援する人材インキュベーション事業

子ども食堂や学習支援など「子どもの居場所」の立ち上げを考える人・団体を中心に、8 人・団体の伴走支援(相談支援、人材マッチング、資金提供、広報支援)を実施した。
その結果、2 団体が子ども食堂や居場所の具体的な開設につながった。

４．市民活動に関する情報発信事業（収益 ’21：0 千円、’20：0 千円）

4.1. メールニュース、公式 LINE アカウント「裏六甲子ども支援ネット@591ufrmv」

メールニュースでは、主催事業の案内に加え、助成金情報、地域イベント情報を不定期で配信している。ホームページは、井上義則さんが情報更新や構築の支援に携わってくださっている。
また、公式 LINE アカウント「裏六甲子ども支援ネット」を作成し、子ども・若者支援者向けの情報発信を行っている。

その他、当団体の活動の情報発信は、以下のツール活用して行っている。

ホームページ
https://batotsunagari.net/

Facebook
https://www.facebook.com/batotsunagari/

Twitter
https://twitter.com/batotsunagari

三田まちの寺子屋「まなびあ」Facebook
https://www.facebook.com/sanda.manavia/

北神日本語教室 Facebook
https://www.facebook.com/hokushinnihongokyoushitsu/

ベトナム語での情報発信 Facebook 【NEW】
https://www.facebook.com/profile.php?id=100081397306085

裏六甲子ども支援ネット 公式 LINE アカウント
LINE ID：@591ufrmv

インスタグラム【NEW】
https://www.instagram.com/batunagari/

ほっこり縁側ひろば【NEW】
https://sites.google.com/batotsunagari.net/engawa-hiroba/

５．まちづくりに資する地域情報化事業　（収益 ’21：0 千円、’20：20 千円）

5.1. オンライン会議の支援

zoom を中心としたオンライン会議支援のニーズがあったため、相談支援や講師派遣を行った。

6. まちづくりに資するコーディネーション事業（収益 ’21：15,442 千円、’20:717 千円）

6.1. 在住外国人支援を通したまちづくり支援事業

①地域日本語教室「北神日本語教室」運営 （コーディネーター： 本田文代）
【ひょうごボランタリー基金助成／神戸市国際コミュニティセンター助成】

在住外国人区民が生活や働くうえで必要な日本語を習得できるよう、養成講座を受講した日本語ボランティアが1対1で教える地域日本語教室を、2019 年 12 月に開設。日本語のみならず、暮らしにまつわる生活相談や文化、社会ルールなども一緒に学びあっている。
活動の様子は、コーディネーターが Facebook ページにて報告・発信している。

日　時　　毎週水曜日　18:30～20:00
場　所　　北神区文化センター会議室（神戸電鉄岡場駅徒歩5分）
参加者

- 外国人登録者： 17名（うち継続参加者10名）
- 参加者出身国： 中国、ベトナム、フィリピン、ボリビア、ネパール、ジャマイカ、アメリカ
- 参加者の背景： 技術者、技能実習生、介護実習生、家族滞在、日本人の配偶者など
- 日本語ボランティア： 有資格者 2 名、日本語ボランティア養成講座修了者15 名

感染対策（検温、マスク、アルコール消毒、フェイスシールド着用）を講じながら対面による活動を実施した。また、多文化共生センターひょうご・北村広美さん（保健師）からワクチン接種の有用性や接種への不安についての相談会を教室内で開催するなど、時季に応じた内容を盛り込んで行った。日本語支援活動も外国人学習者の要望に沿ったものを各ボランティアが工夫しながら行い、外国人学習者の努力もあり、日本語能力試験も新たにN2（1名）、N3（5名）の合格も吉報となった。

本人の希望に即してマンツーマンで対応

坊主めくりをみんなでやりました

②地域日本語教室「外国人ママのための北神日本語教室」運営（コーディネーター： 本田文代）
【赤い羽根共同募金 「第2回外国にルーツがある人々への支援活動応援助成」事業】

平日夜間に参加できないママをはじめとした在住外国人区民を対象とした日本語教室を、2022 年 2 月に新しく立ち上げ。北神日本語教室の日本語ボランティアが1対1で日本語を教えるのみならず、暮らしにまつわる生活相談や文化、社会ルールなども一緒に学びあっている。
また、保育士や看護師を招いて「子育て相談会」も実施した。

日　時　　毎月第1～3月曜日　10:00～11:30（毎月3回実施）
場　所　　北神区文化センター　和室（神戸電鉄岡場駅徒歩5分）
参加者
- 外国人登録者： 5 名（うち継続参加者 3 名）
- 参加者出身国： 台湾、ベトナム、フィリピン、アメリカ、ジャマイカ
- 参加者の背景： 家族滞在、日本人の配偶者
- 日本語ボランティア： 日本語ボランティア養成講座修了者 5 名

子どもが遊べるおもちゃも準備

看護師より体を冷やすポイントの説明を受ける

また、外国人母親の置かれる現状や悩みごとなどを学び、意見交換を行うボランティア養成講座を、教室開設前に実施。ボランティア希望者とともに学んだ。

日　時　2021 年12月20日（月）10:00～12:00
場　所　北神区文化センター　会議室（神戸電鉄岡場駅徒歩5分）
講　師　野村　由紀子さん（NPO 法人篠山国際理解センター 職員）
参加者　10名

③日本語ボランティア養成講座

【神戸市北区地域提案型活動助成／兵庫県国際交流協会民間国際交流助成事業】

日本語教室でのボランティア活動に関心を持つ人を対象に、日本語教授法や在住外国人に日本語を教え関わる際の心構え、外国人が置かれる背景の理解、「やさしい日本語」の基礎などを学ぶ講座を開催した。参加者6名。

実施日	内容	講師
2021年8月4日(水) 18:30-20:00	多文化共生論	土井佳彦さん NPO 法人多文化共生リソースセンター東海 代表理事
2021年8月11日(水) 18:30-20:00	在住外国人との共生社会づくり	山野上隆史さん (公財)とよなか国際交流協会
2021年8月18日(水) 18:30-20:00	災害時における外国人の状況 ～日本語教室・ボランティアと関係機関との関係づくり 主体的な学習の促進 ～「補助輪」の役割について	大久保雅由さん 城陽市国際交流協会事務局長 ベティーナ・ギルデンハルトさん 同志社大学教授
2021年8月25日(水) 18:30-20:00	外国人と(やさしい日本語で)話しましょう	慶野法子さん NPO 法人実用日本語教育推進協会 スタッフ

④日本語ボランティアブラッシュアップ研修

【神戸市北区地域提案型活動助成／ひょうごボランタリープラザ助成事業】

日本語ボランティアがより良い活動を行うための研修・ブラッシュアップ講座を実施。日本語教授法や教授法の助言を講師より受けるとともに、日本語ボランティアとしてどのように関わることが望ましいかについても学んだ。

日　時　　2021年9月29日(水)、2022年3月16日(水)18:30-20:30
場　所　　北神区文化センター　会議室(神戸電鉄岡場駅徒歩5分)
講　師　　9/29 野村 登美子さん　(NPO 法人実用日本語教育推進協会 講師)
　　3/16 田村 太郎さん　(一般財団法人ダイバーシティ研究所 代表理事)
参加者　　日本語ボランティア 計38名

⑤ベトナム語への翻訳

NPO 法人篠山国際理解センターから、小学校に通う子を持つ保護者向けの学校通信等のベトナム語翻訳の依頼を受け、スタッフのエンが対応した。

（公財）日本国際交流センターおよび NPO 法人ジャパン・プラットフォームによる、「在留外国人への緊急支援と持続的な体制構築」事業助成に採択され、以下の事業に取り組んでいる。
（事業実施期間： 2022 年 5 月から 2023 年 2 月、助成額 1,110 万円）

- アウトリーチ型による相談支援体制（生活、住居転居、子育て、就労支援等）
  【日本語、ベトナム語、英語対応】
- ベトナム語、英語による多言語情報発信（専用 WEB ページを新たに立ち上げる）
- ベトナム語での地域情報ニュースペーパー発行（月 1 回、計 9 枚発行、配布数 200 枚）
- 在留外国人への食料支援（3 回実施）
  ＊初回は、7 月 17 日（日）にマルナカ 2 階空き店舗をお借りして実施。25 人が参加。
- 在留外国人の母親への日本語支援 （孤立している在留外国人母親同士がつながり、日本語と地域社会の支援が受けられる拠点としての教室運営）
  ＊赤い羽根共同募金助成事業を継続する形で、2022 年 10 月より実施

6.2. 地域行事への参加

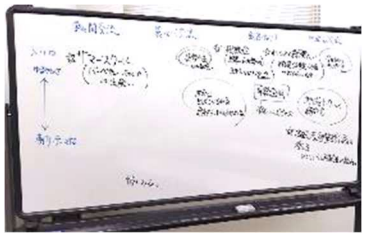
コロナ禍で三田まつり・あきんどまつりともに中止となった。
カルチャータウン地区にある商業施設まほろばブレッツァで新たに始まった「まほろばマルシェ」に、SSV 関西学院と協働で参加。「子ども縁日」として出店している。

実施日　2021 年10月31日(日)、12月12日(日)、2022年3月27日(日)、5月29日(日)

6.3. 学生のまちづくり参加促進事業

市内在住の学生と地域活動・ボランティア活動をつなぐための交流会を、三田市若者のまちづくり課と共催で開催した。社会貢献したい学生や、縁あって三田で暮らしているが地域と接点を持つことができていない学生が一定数いることを踏まえ、どのような場があれば地域とつながることができるかを参加者同士で議論した。

日　時　　2022 年 6 月 19日(日)10:15～12:15
場　所　　三田市まちづくり協働センター　講座室
参加者　　学生 4 名、一般市民 6 名



※なお、本年度は関西学院大学総合政策学部「都市政策演習 2」の演習は不開講。

6.4. 居住支援事業

シングルペアレント家庭や在住外国人など「住まい」に困りごとを持つ人からの相談が出てきたことを受け、支援体制を整えるため、ひょうご住まいづくり協議会(事務局・兵庫県住宅政策課)「令和4年度ひょうご居住支援団体発掘・育成支援事業」に応募し、採択された。具体的な活動は2022 年度からとなる。

6.5. 安心して声を発せられる地域づくり支援事業

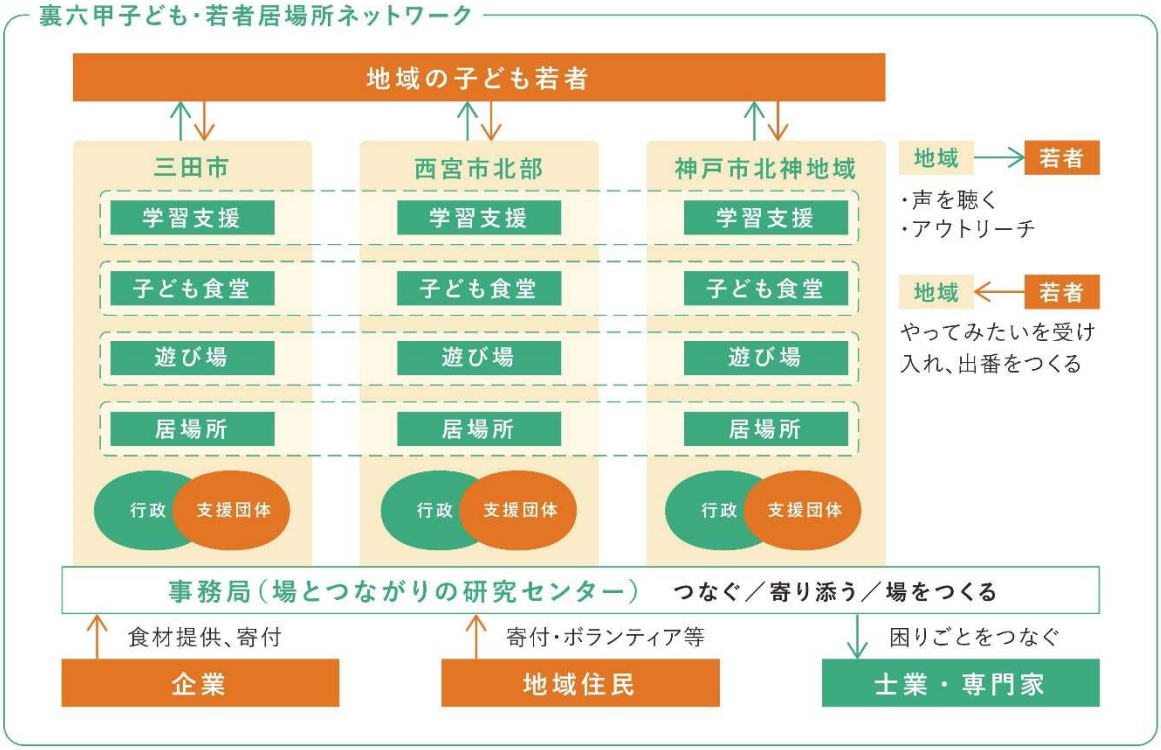
【公益財団法人信頼資本財団　休眠預金を活用した新型コロナウイルス対応緊急支援助成事業】

新型コロナウイルス感染拡大によって、「新しい生活様式」を人々に求めることになるなど、社会にこれまでにない変化をもたらしており、結果的に生活上の困難を抱える人々が増え、各種支援を準備している行政においても対応が困難な社会的課題が増えている。

このような中で、三田市・神戸市北神区・西宮北部で、誰にも相談できずに声を出せずに苦しんでいる子ども・若者や家庭の声を拾うことができる地域住民の「寄り添い人」を育成し、彼らの活動拠点となる学習支援・子ども食堂などの「居場所」の立ち上げや基盤強化支援を行い、既存の団体や専門家など子ども支援に携わる多職種連携のネットワークを作ることで、困っている人が安心して話せる地域住民と出会い「誰かを頼ってもいい」と感じてもらえるような経験をまちの中に多様に増やすことを目的に実施すると同時に、困りごとと出会え、専門機関につなぐためのアウトリーチ体制づくりを行うことを目的に、助成事業に申請したところ、2021 年 5 月に採択され、2022 年 2 月までの 10 ヶ月間のプロジェクトを実施した。

子ども・若者支援団体の実態調査やつながりを作るための研修交流会の開催に加え、当該地域に住む外国人の実態調査などを実施した。その結果、「裏六甲子ども・若者居場所ネットワーク」を立ち上げるに至った。

裏六甲子ども・若者居場所ネットワークのイメージ



詳細は別添の報告書を参照ください。

7. まちづくりに資する子ども・若者支援事業（収益'21：631 千円、'20：109 千円）

7.1. 三田まちの寺子屋「まなびあ」の運営

地域の子どもを地域で支える仕組みづくりを目指し、主に生活困窮家庭・ひとり親家庭の子どもや不登校児者の学校外教育の提供を目的に、地域住民と協働で 2013 年 8 月に立ち上げた。子どもにとっての「サードプレイス」となるよう、子どもの声を聴き、寄り添いながら自分のやりたいことに取り組む居場所にテーマを広げ、運営している。

日　時：　毎週水曜日・金曜日 15:30～18:30（利用料：無料）
場　所：　三田じばやん倶楽部
子ども参加者：　小学生～高校卒業生まで、おおよそ5人～8人／回

子どもたちの支援を行う「まなびサポーター」には、中嶋和哉さんをはじめ三田在住の 20-40 代メンバーに加え、ボランティアサークル「SSV 関西学院」のメンバーが参加している。定例会を開催（不定期）し、情報共有や対応を議論している。
日頃の様子は Facebook でも発信している。

友達が友達を連れて参加するなど新規利用も増えているが、初期利用世代が高校生・専門学校生になるなど、子どもたちの入れ替わりも多くなってきた。特に、小学生低学年の利用が増えている一方で、学習支援がより必要と思われる中学生の参加が増えていない。また、昨年に引き続き発達障害を持つ子どもや家庭に居場所のない子、学校に行きづらい子の参加もある。

（これまで助成金をいただいた団体）

独立行政法人福祉医療機構（WAM）	（2013 年度）
公益財団法人ベネッセこども基金	（2014 年度～2016年度）
公益財団法人キリン福祉財団	（2019 年度）
gooddo 社によるクリック募金	（2018 年 1 月終了、現在は楽天アフィリエイトによる支援）
三田市人権を考える会 結サポート事業	（2021 年度）

その他、地域からの資金（寄付金、協賛金等）を集めて運営している。

7.2. 子ども食堂「まかないキッチン」

三田じばやん倶楽部と協働して、2017年より取り組んでいる。もともとは、大東真弓さん(理事)があそびの広場の活動で子どもたちと一緒に料理を作って食べていたところ、日頃話さないようなことが子どもたちの会話の中からたくさん出てきたことを承けて、「子どもたちが安心して思いを吐き出せる場を作ろう」という思いの元で運営している。また、NPO 法人フードバンク関西より食材提供をいただき、当日のメニューや子どもたちへのプレゼントとして活用している。

日 時　毎月最終金曜日 18:00-20:00　＊緊急事態宣言期間は開催せず
場 所　三田じばやん倶楽部
参加費　大人200円、子ども100円(カレー、サラダ、その他寄付いただいたもの)
参加者　子ども約 30 人、保護者が約 5 人、定期的に参加している。
　　コロナ以前は高齢者も約 10 人参加していた。
スタッフ　約10人。調理担当のスタッフ、子どもの相手中心のスタッフなど、それぞれの得意とする内容で活動に携わっており、「田舎の法事」のような場の雰囲気になっている。

7.3. 子どもの食の自立支援プロジェクト

(1)チャレンジキッチン

緊急事態宣言を受けて「まかないキッチン」が実施できなかったこと、また、参加する子どもたちが「食べるだけ」で終わらず自ら作ってふるまう立場に立つ経験が必要と考え、集まった食材を中心に子どもたちが自ら献立を考えて助け合いながら作る料理教室「チャレンジキッチン」を開催した。フードバンク関西からの食料寄贈品を参考にしながらメニューを子どもたちと考え、食材を大人が準備し、子どもたちと大学生ボランティアが協力して調理を行うようにしている。

日 時　毎月第2土曜日 16:30-20:00
場 所　三田じばやん倶楽部
参加者　主に小学生高学年から高校生約 10 人
スタッフ　大東真弓さんを中心に、SSV 関西学院のメンバーなど約6人。

(2)Taro’s Kitchen

困窮世帯の子自身が自らの食事を作れるようになるために、1対1で支援を行う「Taro’s Kitchen」も、2020 年度より継続して実施。元相談支援員の狩野和代さんにご協力いただき、事務所で料理教室を行っている(月1回程度)。献立決めから食材購入、調理、配膳、片付けまでを一緒に取り組んでいただき、その過程で「つぶやき」を多く拾うことでニーズを拾い上げ、自立支援プログラムを検討している。

(3)吉野家連携企画

(一財)日本民間公益活動連携機構(JANPIA)からの紹介で、株式会社吉野家の社会貢献事業である「牛丼無償配布」に参加。毎月1回最大 130 食分の牛丼並盛弁当をいただき、困窮世帯やシングルペアレント世帯など「孤食」状態にある子どもたちを対象に、ボランティアなどと一緒にあたたかい食卓の場を提供する事業を 2022 年 1 月より実施。「まなびあ」に加えて、西宮市上山口東自治会「子ども食堂“みんなあつまれ”」とフラワータウン地区住民有志による集いの場も参加し、子どもたちにあたたかい場づくりに貢献している。

7.4.「まなびサタデースクール」開催

実施日	参加人数
2021年10月17日	3人
2021年12月11日	3人
2022年1月29日	1人
2022年4月3日	3人
2022年5月15日	3人
2022年7月3日	2人

(1)はじめてのプログラミング

子どもたちのプログラミング的思考力の向上を目的として定期的に開催。子どもの成長を願うメンターからのさまざまなアドバイスもあり、興味深い作品を子どもたちは作っている。

※参加者の作品アトリエ:https://scratch.mit.edu/studios/1741552/

初心者向けの体験企画も開催。年に 2 回開催しており、秋開催(コロナ蔓延で中止)と春開催(3月27日と4月3日: 2 人)を実施した。
また、三田市国際交流協会からの依頼を受け、外国にルーツを持つ子を対象としたはじめてのプログラミング企画へ、プログラミングボランティアスタッフを講師派遣した(8 月 7 日)。

7.5. フードシェアリング事業

(1)食料拠点整備事業

NPO 法人フードバンク関西とフードロスとなりそうな食材を提供いただく協定を結んだ。毎月第2水曜日にボランティアの中嶋和哉さんが引き取りに行き、まかないキッチン・チャレンジキッチンで活用している。同じくフードバンク関西と協定を結んでいる西宮市上山口東自治会から配送代行の依頼を受け、同時に引き取りに行っている。

また、食材を適切に管理し、必要な人に渡せる環境整備を行うことを目的に、三田市若者のまちづくり課より補助を受け、業務用冷凍冷蔵庫を購入した。

※三田市若者のまちづくり課と連携し、2022 年 9 月よりマルナカ三田店・マックスバリュ三田三輪店からも食材提供が始まった。

(2)フードドライブ促進事業

マルナカ2階の空き店舗を活用し、食料を必要な人に届けるために家に余っている食材を寄贈いただくための場である「フードドライブ」を、三田市若者のまちづくり課と連携して実施した。また、ボランティアや学生サークルと協働で「こども縁日」を同時開催し、楽しいイベントの雰囲気をつくると同時に、来場した方にフードドライブの必要性について普及啓発に取り組んだ。

	①2022 年1月 22 日(土) 11;00～14:00	②2022 年6月 12 日(日) 10:30～13:00
食材量	25名よりコンテナ 5 箱分の食材提供。 乃が美はなれ三田店から食パン55斤寄贈。	32名よりコンテナ6箱分の食材提供。
子ども縁日	SSV 関西学院 ボランティアサークル BELL	SSV 関西学院、こみんか学生拠点 ボランティアサークル BELL

(3)一人暮らし学生への食料配布事業「さんだまんぷくプロジェクト」

三田市若者のまちづくり課からの呼びかけで、市内在住の一人暮らし学生(関西学院大学、湊川短期大学、神戸医療福祉専門学校三田校)を対象とした無料の食材配布企画を実施。市民・学生ボランティアを募り、食料配布に加えて1対1での個別インタビューを行うことで、学生の困りごとの状況を把握し、課題の整理に取り組んでいる。

「7.5. フードシェアリング事業」(p.17)や「6.3. 学生のまちづくり参加促進事業」(p.12)と関連付けながら、学生の社会参画を促進していくように取り組みたい。

	第１回	第２回	第３回
日時 場所	①市役所配布 2021年11月5日(金) 17:30-20:00 2021年11月6日(土) 13:00-20:00 2021年11月7日(日) 10:00-17:00	①市役所配布 2022年1月21日(金) 17:30-20:00 2022年1月22日(土) 13:00-20:00 ②湊川短期大学食堂配布 2022年1月27日(木) 13:30-17:00	①市役所配布 2022年6月24日(金) 18:00-20:00 2022年6月25日(土) 10:00-17:00 ②湊川短期大学食堂配布 2022年7月7日(木) 13:30-17:00 ③広野市民センター 2022年6月25日(土) 18:00-20:00 2022年7月7日(木) 18:00-20:00
参加者	234名	253名	321名
食材 提供	NPO法人フードバンク関西	NPO法人フードバンク関西 1/22 フードドライブ 乃が美はなれ三田店　他	NPO法人フードバンク関西 6/12 フードドライブ アイリスオーヤマ　他

また、活動の様子をまとめた動画をボランティアの仲西美樹さんが作成。当法人の管理するyoutubeアカウントにて掲載し、各種資料等で紹介している。
https://www.youtube.com/watch?v=Y9xI8Y1qy70

7.6. 長尾児童館「子どもヘルパー支援事業」～子どものための児童館と NPO の協働事業

神戸市北区にある長尾児童館のプロジェクト「子どもヘルパー」を支援。子どもヘルパーは、農村地域にある児童館の特性を活かし、ニュータウンにある大規模小学校児童の社会貢献プロジェクトで、①地域の伝統文化の伝承（地域行事体験など）、②多世代交流（未就学児向け、高齢者向けの企画）に加えて、③子どもたちが「こんなことをやりたい！」を実現するプロジェクトとして取り組んでいる。子どもたちの話し合い活動のファシリテーター役や子どもたちの取り組みの補助を行うために、児童館と子どもたちの取り組みを側面的に支援する大学生を派遣している。

7.7. 不登校児・ひきこもり者および家族支援のあり方研究会

（1）不登校・ひきこもり者支援者ネットワーク会議 【NPO 法人子ども食堂支援センターむすびえ助成事業】

裏六甲エリアにて不登校児やひきこもり者の支援を行っている市民活動団体同士の横の連携や、専門家とのつなぎ、情報交換などを目指したネットワークづくりに取り組んだ。想定以上に参加者があり、関心の高さを感じたことから、継続的に実施していきたい。

日 時　第１回 2022 年 7 月 18 日（月祝）10:00-12:00
場 所　さんだ市民センター　視聴覚室
参加者　22 名（市民活動団体、公的団体の相談員、保護者会や当事者会のメンバー）

（2）不登校・ひきこもりの方のためのオンライン居場所「ほっこり縁側ひろば」事業

兵庫県障害福祉課「ひきこもり状態にある者を対象とした電子媒体を活用した居場所の開設業務」として事業を実施。オンライン会議システム Zoom を活用し、趣味やアニメなどサブカルチャーをテーマとしたオンライン居場所を開設。ひきこもりの当事者・経験者向けの情報プラットフォーム「ひきプラ」などで情報発信を行っている。

日 時　毎月第 4 月曜日 16:00-17:00
第１回　2022 年 6 月 6 日「マイブームについて」
第２回　2022 年 6 月 27 日「推しのアニメについて」
第３回　2022 年 7 月 25 日「写真・カメラについて」
ファシリテーター　黒ひげ☆さん（はじまりの街　世話人）
池辺寿江さん（西宮市ココロの居場所「ふわっと」代表）

８．市民活動及びまちづくりに関する調査研究事業（収益’21：500 千円、’20：904 千円）

8.1. NPO 事務支援のあり方研究会 【ひょうごボランタリー基金助成事業】
～非都市部 NPO の事務力向上に向けた実態調査及びスタッフのキャリア支援モデル構築事業

人材が必ずしも十分と言えない非都市部で活動する NPO 法人を対象に、事務力の現状や事務コストへの認識、担当者の研修スキームなど「NPO 法人の事務力の実態」を調査し、NPO 法人の事務局スキルアップに必要な支援メニュー「ウラカタ支援プログラム」を開発することを目的に実施。課題を整理し、支援の方向性をまとめた。

【研究アドバイザー】
森　建輔さん（バックオフィス業務オーガナイザー）
壷井祐輔さん（NPO 法人北播磨市民活動支援センター　事務局）
北内はるかさん（NPO 法人岡山 NPO センター　事務局）

8.2. ユースワーク研究会　8.3. 居場所研究会　8.4. 研究受託　8.5. 市民調査支援

今期は実施なし

■ 管理および法人運営部門

1. 会員の状況　（収益 ’21：123 千円、’20：105 千円）

正会員は、期初時点から 3 名増で 20 名となっている。
賛助会員は、期初時点から 4 名増で 21 名となっている。

2. 寄附の状況　（収益 ’21：296 千円、’20：129 千円）

今期はコロナ禍への対応を含め事業に集中していたため、寄付募集の取り組みに十分に取り組めなかった。今後の活動に充ててほしいと活動謝金をそのまま寄付してくださった方も多くいらっしゃり、このようなお気持ちに応えた取り組みを進めていきたい。また、新規事業に合わせて寄付募集を行うことも検討し、支援の広がりをいっそう求めていきたい。

3. 会議に関する事項

総会および理事会を下記の通り実施。理事会ではメーリングリストで情報共有・意見交換を適宜行っている。

	日 時	会場	備 考
総　会	2021 年 10 月 9 日	三田ほんまち交流館「縁」	通常総会
理 事 会	2021 年 8 月 26 日	ZOOM	
	2021 年 9 月 27 日	ZOOM	
	2021 年 12 月 2 日	ZOOM	
	2022 年 2 月 12 日	ZOOM	
	2022 年 7 月 31 日	ZOOM	

4. 職員体制

休眠預金事業による予算を活用し、職員体制を整えて事業に取り組んでいる。

事務局長・統括	大島　一晃（法人理事、週5日）
国際事業部（外国人支援チーム）	本田　文代（週 5 日） ドウ・シ・ハ・エン（週3日） 平田　利枝（週2日）＊’22 年 6 月から
子ども・若者支援コーディネーター	島津　恵美（週5日） 小宮　真希（週5日）＊’22 年 2 月まで 山本　幸枝（週1日）＊’22 年 6 月から
管理部門・事務局	辻本　　倫（週1日）＊’22 年 3 月まで 平田　利枝（週1日）＊’22 年 6 月から

また、当法人はプロジェクトごとに多くのボランティアの参加・協力によって運営されている。
特に活動の基盤を支えてくださっているボランティアを、感謝の気持ちを込めて紹介する。

情報発信部門（ホームページ管理）	井上　義則（法人正会員）
子ども・若者支援（まなびあ）	中嶋　和哉、SSV 関西学院

5. 他団体との連携・協力

以下の組織・ネットワークに所属し、適宜情報交換や事業連携を行っている。

- 車瀬橋商店街
- 三田本町通商店街（準会員）
- 三田市商工会
- ひょうご子育てコミュニティ
- ひょうご市民活動協議会
- 三田地区県民交流広場「じばやん倶楽部」運営委員
- 三田小学校コミュニティスクール運営協議会　運営委員
- コープともしびボランティア振興財団　運営委員
- 大阪ボランティア協会　情報誌「Volo」 編集委員
- 〃　ボランティア NPO 推進センター運営委員
- 三田市地域福祉審議会　委員
- 三田市子ども審議会　委員
- 神戸市認定 NPO 取得支援アドバイザー
- （一財）非営利組織評価センター　グッドガバナンス評価委員

■ これまでの業績推移

	収益	経常収支差額	主な事業等
2006 年度	6,192,761	△960,814	市民活動推進プラザ運営
2007 年度	9,339,984	137,083	地域 SNS「さんでぃ」立ち上げ
2008 年度	17,329,561	△347,523	総務省「地方の元気再生事業」
2009 年度	17,053,023	66,850	
2010 年度	49,197,634	△2,257,061	総務省「地域 ICT 利活用広域連携事業」。 他、3 つの緊急雇用事業
2011 年度	20,208,730	△961,253	市民活動推進プラザ、受託終了。ほんまち移転
2012 年度	5,412,920	△1,222,338	ひょうごコミュニティ財団設立支援
2013 年度	4,823,671	407,254	居場所研究会、まなびあ設立
2014 年度	3,470,315	630,174	中堅スタッフ育成、まなびサタデースクール
2015 年度	4,228,054	717,566	気づきの事例検討会
2016 年度	4,180,558	116,841	対話の場づくり・ﾌｭｰﾁｬｰｾｯｼｮﾝ、がんばりタイム
2017 年度	4,134,888	313,566	学習支援ﾊﾝﾄﾞﾌﾞｯｸ、遺贈資源仲介、都市政策演習
2018 年度	5,087,612	1,246,810	対話の場づくりハンドブック・ユースワーク研究会
2019 年度	6,480,788	1,720,460	日本語ボランティア養成講座、北神日本語教室 長尾児童館支援、緊急事態宣言下の支援活動
2020 年度	7,486,879	579,798	子どもの声を聴くためのハンドブック、NPO 事務力アップ支援事業、休眠預金を活用した事業
2021 年度	21,880,263	124,028	裏六甲子ども・若者支援者ネットワークづくり事業 一人暮らし学生への食料配布支援事業 在留外国人へのアウトリーチ型相談整備事業

以上